

製品名: IGF1R-ベータマウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80605**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2a
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.03%アジ化ナトリウムを含むPBS。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	96kDa

抗原情報

遺伝子名	IGF1R-Beta
別名	IGF1R
遺伝子ID	3480.0
SwissProt ID	P08069
免疫原	大腸菌で発現した IGF1R-Beta (AA: 1101-1367) の精製された組み換え断片。

背景

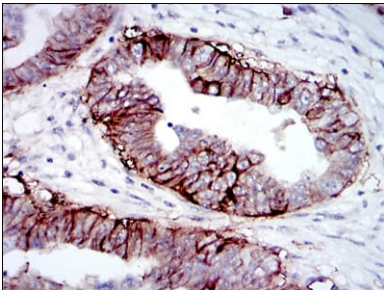
IGF1R（インスリン様成長因子1受容体）は膜貫通型受容体チロシンキナーゼであり、胎児および出生後組織の多くの細胞種、そして多くの細胞株に広く発現しています。受容体はリガンドであるIGF-IおよびIGF-IIに結合すると、自己リン酸化反応を起こします。キ

ナーゼドメイン内の3重チロシンクラスター (Tyr1131、Tyr1135、および Tyr1136) は、自己リン酸化反応の最も初期の主要部位です。これら3つのチロシン残基のリン酸化は、キナーゼの活性化に不可欠です。インスリン受容体 (IR) は、キナーゼドメインの活性化ループ内に同等の3重チロシンクラスター (Tyr1146、Tyr1150、および Tyr1151) を含む、構造と機能の両面で IGF1 受容体と高い類似性を有しています。インスリン受容体のチロシン自己リン酸化は、インスリン刺激に対する最も初期の細胞応答の一つです。自己リン酸化は、Tyr1146 と Tyr1150 または Tyr1151 のいずれかのリン酸化から始まります。キナーゼの完全な活性化には、3つのチロシンリン酸化が必要です。

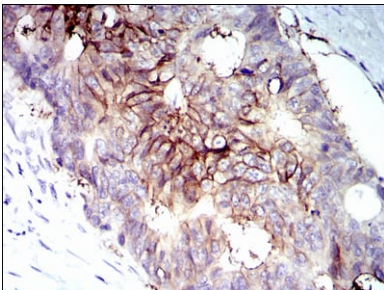
研究分野

PI3K-Akt シグナル伝達経路、Jak-STAT シグナル伝達経路、Hippo シグナル伝達経路

画像データ



IGF1R-Beta マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト卵巣癌組織の免疫組織化学分析。



IGF1R-Beta マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト直腸癌組織の免疫組織化学分析。